

小学校国語B (主として「活用」に関する問題)

平成30年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。話し合いや文章の紹介、伝記を読んだ感想などの身近な場面をおととして、まとめる、自分の考えを持つ、表現するなどの問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.5ポイント下回っています

《平均正答率(%)》

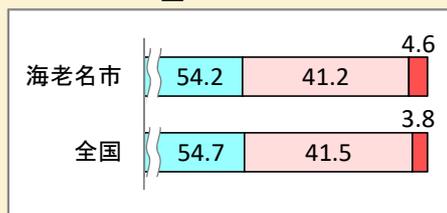
	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語B	54.2	54.0	54.7	-0.5

誤答の様子は…

分布の様子は…

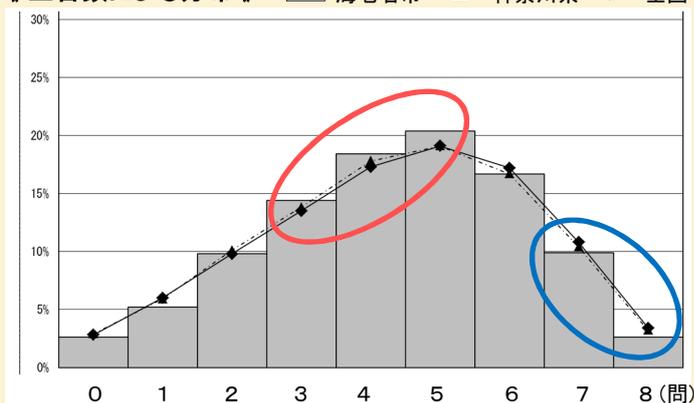
《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は4.6%でした。

《正答数による分布》



全国と比較すると
正答数が3~5問の児童が多く
7問以上の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~4問)の児童の割合は50.4%でした。(全国は49.4%)

* 正答率80%以上(7~8問)の児童の割合は12.5%でした。(全国は14.2%)

領域別の正答率

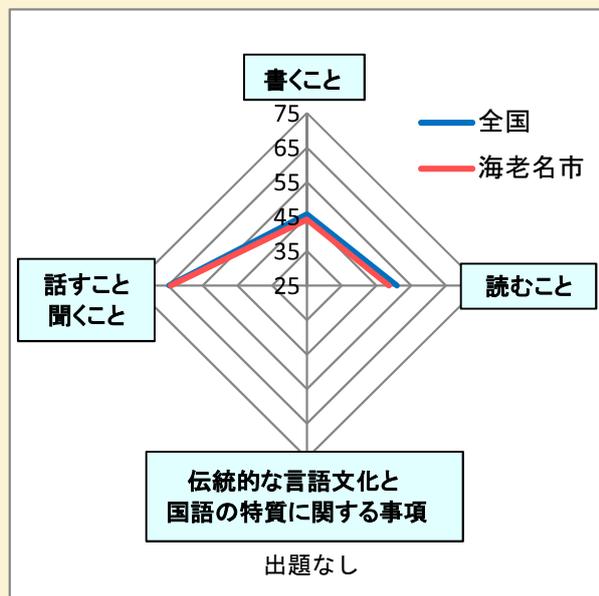
3領域において全国と比較して
やや下回っています

《平均正答率(%)》

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	64.2	64.6	-0.4
書くこと	44.1	45.6	-1.5
読むこと	48.5	50.8	-2.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	この領域は今年度出題なし		

* 「書くこと」「読むこと」については、1.5ポイント以上、下回っていました。

* 特に「読むこと」については、2.3ポイント下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- 推薦文を書くときの工夫として適切なものを選ぶ。(+4.0)
- 話し合いの場面で、発言の意図として適切なものを選ぶ。(+1.6)
- 話し合いの場面における、司会の役割として適切なものを選ぶ。(+1.6)

全国を下回った設問

- 伝記の「最も心がひかれた一文とその理由」を条件に合わせて書く。(-5.5)
- 話し合いの登場人物の立場になって発言を考え、書く。(-4.5)
- 「おすすめする文章」の一部分を、条件に合わせて書く。(-1.7)

国語Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

「おすすめする文章」の一部分を、条件に合わせて書く設問 (全国との比較-1.7)

「かみかみあえ」のむし歯を防ぐ効果に着目して【おすすめする文章】の を書くことになりました。そこで、以前メモしていた【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れてくわしく書こうとしています。

に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【おすすめする文章】

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんでたべることから、このような名前がついています。うちの人にこの「このかみかみあえ」をサラダやあえ物のメニューとしておすすめします。 …(省略)

特におすすめしたい理由は、次の二つです。

一つ目の理由は、 …(省略)

二つ目の理由は、「かみかみあえ」に虫歯を防ぐ効果があります。

同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「ツナマヨサラダ」と比べると、「かみかみあえ」の方がより虫歯を防ぐ効果があります。 「かみかみあえ」は、 おいしくて、みんなに人気があり、 …(省略)

【保健室の先生の話から分かったこと】

- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になる。
- だ液がたくさん出て口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
- まんぷく感が得られ、食べすぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
- だ液の量が増え、消化がよくなる。

<条件>

- ・【紹介する文章】【保健室の先生から分かったこと】から言葉や文を取り上げて書くこと
- ・【おすすめする文章】にふさわしい言葉で書くこと
- ・書き出しの言葉に続けて、50字以上80字以内

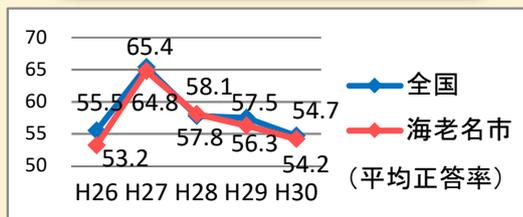
正答は省略

☆国語Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が3～5問の児童が多く、7問以上の児童が少ないことから、基礎的な力を生かして問題を解決する能力を高める必要がある。
- ◆ 平均正答率は全国とほぼ同じであり、文章を工夫して書いたり、話し合いの内容を適切にとらえたりする力が身につけてきている。
- ◆ すべての設問について無解答率が全国と比べて高く、後半の設問ほどその差が大きくなっていくことから、粘り強く問題に取り組む力を身につける必要がある。

これまでの比較



- ◆ 全国を下回っているものの、平成29年度よりも全国との差は小さくなっている。
- ◆ 「読むこと」「書くこと」の領域は、5年間とも全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「読むこと」の力を高めるために
 - 必要な語句を図示しながら整理したり、複数の情報を関連づけて考えたりすることを指導する。
- ◆ 「書くこと」の力を高めるために
 - 字数などの条件に合わせて、目的に合った文章を考えて書くことを継続的に指導する。